

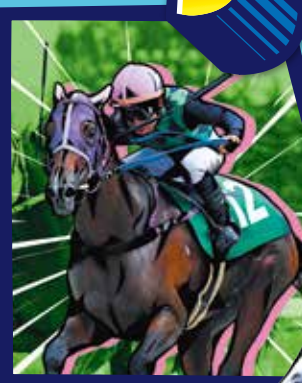
2024.12.14 中山競馬場・京都競馬場・中京競馬場

ターコイズステークス(GⅢ) 前日発売 朝日杯フューチュリティステークス(GⅠ)



ミライの主人公が、ここにいる。

2024 YOUNG JOCKEYS SERIES



About Young Jockeys Series

Final Round ファイナルラウンド

トライアルラウンドの成績で選ばれたJRAと地方競馬の若手騎手16名がファイナルラウンドに進出。騎乗馬の着順により点数が与えられ、その合計得点で順位を決定します。

12.12(木) 園田競馬場

12.14(土) 中京競馬場

◆第8レース 13時40分発走予定

2024ヤングジョッキーズシリーズファイナルラウンド中京第1戦 芝2000m

◆第10レース 14時50分発走予定

2024ヤングジョッキーズシリーズファイナルラウンド中京第2戦 ダート1400m

●詳細はこちらをご覧ください

2024 ヤングジョッキーズシリーズ



READY GO!

東日本地区 1位 室陽一郎 (むろ ひりょう)



2002年4月9日生 広島県出身
所属 浦和・宇野木博徳厩舎
初騎乗 2022年5月30日
通算成績 1438戦103勝

強気の騎乗で逆転進出

TR最終戦となる船橋第2戦を勝ち、一発逆転でファイナル進出を決めた。そのレース内容は落ち着いた流れを最後方から向正面で3番手まで進出し、直線で抜け出す強気の騎乗。今年は名古屋で期間限定騎乗も実施。「どの業界でもヒーローになってほしい」と両親から思いを込められ、広島県の島で生まれ育った。

東日本地区 2位 鷹見陸 (たかみ りく)



2003年4月12日生 東京都出身
所属 大井・鷹見浩厩舎
初騎乗 2022年4月18日
通算成績 779戦57勝

南関東で好成績を残す

大井第1戦を残り100^{ポンド}から一気に差し切って勝利。2着は1馬身差、3~8着はすべてクビ差という大混戦を制した。激戦区の南関東において今年43勝はリーディングトップ20に入る成績。地方東日本の4名はみな、偶然にも南関東デビューの同期だけに一層の奮闘が期待される。父・浩調教師は元騎手。

東日本地区 3位 谷内 貴太 (たにうち かんた)



2004年6月15日生 東京都出身
所属 大井・嶋田幸晴厩舎
初騎乗 2022年4月18日
通算成績 1287戦43勝

差して掴んだファイナルの切符

大井第2戦を勝利。逃げ馬が粘り込みを図るところ、力強く追って差し切った。川崎第1戦でも直線で前が壁になって切り替えるロスがあらながらも、しっかりと追って2着。物心ついた頃から父に東京競馬場に連れて行ってもらっていたという競馬好き。小学1年生から8年間、体操を習った。デビュー時に大目標を1000勝に掲げる。

東日本地区 4位 及川 烈 (おいかわ れつ)



2004年3月2日生 埼玉県出身
所属 浦和・長谷川忍厩舎
初騎乗 2022年4月25日
通算成績 921戦67勝

今年は高知・佐賀で武者修行

門別第2戦は前が飛ばすハイペースを、先頭から約20馬身離れた最後方から追い込み2着。対照的に浦和第1戦はスローペースで逃げると、出走12頭中の11番人気馬で2着に粘り込んだ。今年は地元・浦和を離れて高知や佐賀で期間限定騎乗をし、特に佐賀ではコンスタントに勝利を重ねる。デビュー年に続き2回目のファイナル出場。



2024 ヤングジョッキーズシリーズ ファイナルラウンド

2024 YOUNG JOCKEYS SERIES

出場騎手紹介 地方競馬編

西日本地区 1位 土方 颯太 (ひじかた そうた)



2007年2月9日生 岐阜県出身
所属 兵庫・高馬元紘厩舎
初騎乗 2024年4月16日
通算成績 291戦26勝

兵庫同期の中で存在感を示す

金沢第1戦でロスなく立ち回って差し切り勝ちを収め、一気にファイナル進出を決めると、第2戦も2着。今春、兵庫では同騎手を含め4名がデビュー。少なくともここ数十年では最も多いデビュー人数で、減量特典がありながらも騎乗数は分散したが、その中でも存在感を示して同期で1、2を争う勝利数を挙げる。

西日本地区 2位 長江 慶悟 (ながえ けいご)



1999年11月12日生 愛知県出身
所属 笠松・後藤佑耶厩舎
初騎乗 2020年10月5日
通算成績 1334戦94勝

笠松から6年ぶりのファイナリスト

名古屋第1戦は4コーナーで砂の深い内をすくって差し切り勝ち。他騎手が外への進路取りに意識が向く中、上手く捌いた。デビューからしばらくは落馬負傷などでレースに乘れない期間が長かったが、その後は着実に勝利を積み重ね、通算100勝へカウントダウンが始まっている。笠松から6年ぶり2人目のファイナル進出だ。

西日本地区 3位 加藤 翔馬 (かとう しょうま)



2005年4月24日生 石川県出身
所属 金沢・加藤和義厩舎
初騎乗 2023年4月2日
通算成績 1259戦161勝

地元リーディングで上位に

名古屋第2戦は道中で脚をためて2着。全国で活躍する兄弟子・吉原真人騎手からのアドバイスを生かした騎乗だった。笠松第1戦でも2着など安定した成績を残した。デビューから約1年半で150勝を挙げ、今年は地元リーディング上位につける。父は和義調教師(金沢)で、地方競馬平地最多重賞勝利のハクサンアマゾネスを管理。

西日本地区 4位 望月 洵輝 (もちづき じゅんき)



2006年8月27日生 愛知県出身
所属 愛知・井上哲厩舎
初騎乗 2024年4月9日
通算成績 786戦77勝

デビュー半年弱で50勝の有望株

名古屋第2戦で鋭い末脚を発揮して差し切り勝ち。普段のレースから差しが得意で、今年4月のデビューから半年弱で通算50勝を達成した若手有望株だ。自ら営業して調教師数を増やし、現在は1日最多29頭。それが地方の同期で最多騎乗数に繋がっている。国内最高齢競走馬だったヒカルアヤノヒメ(19歳)の調教に乗った経験もある。

東日本地区 1位 佐藤 翔馬 (さとう しょうま)



2004年11月8日生 神奈川県出身

所属 美浦・杉浦宏昭厩舎

初騎乗 2023年3月4日

通算成績 356戦4勝

浦和での連勝で通過を決める

浦和第1戦はスローペースで粘る逃げ馬をゴール直前で差し勝利。返す刀で第2戦は早め先頭から大差勝ちを収めた。浦和は昨年2勝を挙げる好成绩の競馬場で、そこでの連勝がTRトップ通過の決め手となった。父は元騎手の博紀調教師(川崎)、母・里美氏も厩務員で、少年時代からジョッキーベイビーズなどポニー競馬に参加していた。

東日本地区 2位 長浜 鴻緒 (ながはま こう)



2005年11月12日生 青森県出身

所属 美浦・根本康広厩舎

初騎乗 2024年3月2日

通算成績 419戦19勝

夏競馬から存在感が増す

門別第1戦を好ダッシュから押し切り勝ちを決めると、応援に来ていた祖父母の前で盛岡第1戦も勝利。夏競馬から存在感が増したように、8月から始まったTRで2勝とアピールした。青森県出身で幼少期は裏山にいた農耕馬をずっと眺めていた馬好きで、競馬ファンの父から騎手という職業を教えられて、夢を叶えた。

東日本地区 4位 土田 真翔 (つちだ まなと)



2004年2月17日生 福島県出身

所属 美浦・フリー

初騎乗 2022年3月5日

通算成績 278戦1勝

盛岡ではコーナリングが光る

盛岡第2戦はスタートで出遅れて後方からとなったが、4コーナーは内からのコーナリングで一気に前との差を詰めると、ゴール直前で差し切り勝ち。車の運転が好きなので、盛岡から美浦までは約6時間かけて勝利の余韻に浸りながら帰った。キスナが勝った日本ダービーから競馬にハマりはじめ、目指すは武豊騎手だ。

東日本地区 5位 石田 拓郎 (いしだ たくろう)



2005年1月20日生 茨城県出身

所属 美浦・新開幸一厩舎

初騎乗 2023年3月4日

通算成績 325戦7勝

JRA・東日本地区3位の大江原比呂騎手が負傷のため、石田拓郎騎手が出場となりました(12月6日時点)。



2024 ヤングジョッキーズシリーズ ファイナルラウンド

2024 YOUNG JOCKEYS SERIES

出場騎手紹介 JRA編

西日本地区 1位 橋木 太希 (はしき たいき)



2006年3月27日生 大阪府出身

所属 栗東・西園正都厩舎

初騎乗 2024年3月2日

通算成績 103戦1勝

胸を張ってファイナルへ

2着4回で高得点をマークしてファイナル進出を決めた。その一方で、今年3月のデビューから初勝利までが遠く、佐賀第2戦では直線でリードを広げるも、ゴール直前でクビ差だけ差されて2着。悔しさを前面に出し、「泣きたいですね」と話していたが、3日後の9月29日中京で嬉しい初勝利。胸を張ってファイナルに出場できる。

西日本地区 2位 河原田 菜々 (かわはらだ なな)



2004年11月13日生 大阪府出身

所属 栗東・渡辺薫彦厩舎

初騎乗 2023年3月4日

通算成績 687戦20勝

佐賀では進路選択の妙で勝利

佐賀第2戦を勝利。内の砂が深い競馬場だが、走りやすいところを選び僅差で勝利を手繰り寄せた。一方で笠松第2戦では後方から差を詰めるために距離ロスを抑えて内をすくって3着というレースを見た。子供の頃から動物が好きで、乗馬を習っていた当時に競馬中継を見たことがきっかけで騎手を志した。

西日本地区 3位 田口 貴太 (たぐち かんた)



2003年12月10日生 岐阜県出身

所属 栗東・大橋勇樹厩舎

初騎乗 2023年3月4日

通算成績 1319戦75勝

昨年2位からのステップアップを

生まれ育った笠松で2連勝を決めた。第1戦は好位から上手く外に出して、第2戦はゴール直前で逃げ馬を抑えてのもの。今年6月には関東オークス(JpnII)をアンデスピエントで勝ち、夏には2カ月弱、フランスで武者修行。トレードマークの坊主頭はそのままに、着実に力をつけている。昨年ファイナル2位のさらなる上を目指す。

西日本地区 4位 古川 奈穂 (ふるかわ なほ)



2000年9月13日生 東京都出身

所属 栗東・矢作芳人厩舎

初騎乗 2021年3月6日

通算成績 827戦50勝

冷静なペース判断で初ファイナル

金沢第2戦は先行馬が殺到してペースが速くなりかけたところ、冷静に控えて勝利。世界で活躍する矢作芳人厩舎の所属で、今夏は負傷による離脱もあったが、1カ月ほどで復帰するなど、その根性には先輩騎手も感服する。22年はTRで1勝を挙げながらもファイナルに進出できず、今年が嬉しい初出場。

2024 YOUNG JOCKEYS SERIES

Road to The Final Round トライアルラウンド・総括

最高ポイントはJRAの橋本騎手 地方東日本からは同期の4名

ヤングジョッキーズシリーズ・トライアルラウンド(TR)は、地方競馬の東西各6競馬場が舞台。4月1日現在の見習(減量)騎手からJRA28名、地方37名が出場し、所属ごとに東日本・西日本に分かれて争われた。騎手ごとに騎乗数は異なるが、上位着順を得た4戦の着順ポイント合計によってファイナルラウンド(FR)出場者が決まる。

JRA東日本では、**佐藤翔馬**騎手がTR浦和第1戦を5番人気馬で勝利、第2戦は2着に大差をつける圧勝で連勝し、1位となった。今年デビューの新人では、**長浜鴻緒**騎手がTR門別、TR盛岡で1勝ずつをあげて2位。**土田真翔**騎手は自身の最終騎乗となったTR盛岡第2戦を勝利し、3年目でFR初出場を決めた。なお、大江原比呂騎手は負傷のため、5位の**石田拓郎**騎手がFR初出場となった。

地方東日本はポイントがばらけた。1位**室陽一朗**騎手(浦和)、2位**鷹見陸**騎手(大井)、3位**谷内貫太**騎手(大井)



トライアルラウンド浦和。佐藤翔馬騎手(10月22日)



トライアルラウンド船橋(10月31日)



トライアルラウンド園田(9月5日)



トライアルラウンド金沢(10月29日)

はいずれも1勝ずつ。**及川烈**騎手(浦和)は2着2回で4位。2022年にデビューした南関東の同期4名が揃ってFR出場。南関東22年デビュー組は、昨年もFRで新原周馬騎手(川崎)が3位、野畑凌騎手(川崎)が5位と活躍した。

JRA西日本では**橋本太希**騎手が3場6戦に騎乗して2着が4回。未勝利ながら80ポイントは全出場騎手で最高ポイント。TR最終騎乗となった佐賀(9月26日)の3日後にJRAで初勝利をあげた。父が笠松の調教師という**田口貫太**騎手はそのTR笠松で連勝し、2年連続FR出場を決めた。

地方西日本では、今年デビューの**土方颯太**騎手(兵庫)が西日本最後のTR金沢で1着・2着と結果を出して1位。2位の**長江慶悟**騎手(笠松)は今年5年目、最後のチャンスでFR初出場。2着2回など良績でまとめた**加藤翔馬**騎手(金沢)が3位、地方の新人では最多の64勝(10月末現在)をあげている**望月洵輝**騎手(愛知)が地元TR名古屋で勝利し4位に入った。

なお女性騎手は、JRA西日本で2位の**河原田菜々**騎手、4位の**古川奈穂**騎手がFRに出場する。(競馬ライター・斎藤修)

※ファイナルラウンド出場予定選手は12月6日時点のものです。

ヤングジョッキーズシリーズ ファイナルラウンド・過去5年の結果

2023	騎手名(所属)	合計ポイント
第1位	横山 琉人 (美浦)	69Point
第2位	田口 貫太 (栗東)	56Point
第3位	新原 周馬 (川崎)	55Point



2022	第1位	小林 凌大 (美浦)
2021	第1位	飛田 愛斗 (佐賀)
2020	第1位	吉井 章 (大井)
2019	第1位	岩本 怜 (岩手)